

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	王 淳 (おう じゅん)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	修士 2 年
発表年月 または事業開催年月	2026 年 2 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本乳幼児医学・心理学会第 35 回大会 早稲田大学国際会議場
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	王 淳 , 外山 紀子
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	幼児の教示場面における自由度変更を通じた支援行動
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>大人が子どもの課題理解と達成を促し、独力で成功へ導く支援のひとつに足場づくり (scaffolding) がある。Wood ら (1976) による「自由度の削減」は、子どもの遂行に応じて子どもが自由に振る舞える領域を縮小させ、課題の難易度を下げる支援であるが、逆に自由度を拡大させ、難易度を上げる支援もある。これらをあわせて、「自由度の変更」と呼ぶ。自由度の変更には、明確な言語的指示などの直接的支援に加え、対象物の配置を調整するなどして相手の注意や操作を導く間接的支援が含まれる。「物理的環境の調整」は、課題をとりまく周囲の物理的環境を整えることによって子どもの探索や試行を促す、子どもの自律性をより尊重した支援といえる。本研究では、4・5 歳児が 2 歳児にパズル操作を教示する課題を行い、教示者としての幼児が物理的環境をどのように調整し、自由度を変更し、被教示者の遂行を支援するかを明らかにする。</p> <p>都内公設民営保育園に通う 4・5 歳児 (教示者) と 2 歳児 (被教示者) のペア 44 組に、パズルの教示課題を実施し、撮影を行った (倫理委員会承認済み)。教示場面はパズルピースの選定・配置・接続・完成・照合から構成された。被教示者が操作しやすいようピースの配置等を整える間接的支援行動である「物理的環境の調整」を、①配置の調整 (取り出し、不要物の除去、並べ替えなど)、②対象物 (ピース) の調整 (事前組立、事前解体など) に分類し、評価を行った。</p> <p>教示者である 4・5 歳児は被教示者の操作が滞った際にピースの取り出しや並べ替えを通して自由度を削減する一方、被教示者が自力で操作している際には支援を減らす傾向があった。「今度は自分で選んでみてね」と促したり、事前に組み立てた大きめの部品をあえて崩してから渡したりするなど、一時的に自由度を高めて自立的操作へと導く事例も認められた。幼児における足場づくりの萌芽が示唆された。</p>	

※無断転載禁止